

テーマ 海岸漂着プラスチックに付着する環境汚染物質のモニタリング調査

研究者 佐藤 伸 (公立鳥取環境大学)

概要

鳥取の海岸には毎年日本海を超えて多くのプラスチックが漂着社会問題となっています。これらの漂着ごみは鳥取砂丘の美しい景観も損ねているだけでなく、プラスチック表面に様々な化学物質を吸着しながら海洋を漂う汚染物質の運び屋となっていることも指摘されています。本研究では鳥取砂丘に漂着している人工のプラスチックについて、それらの表面に付着している揮発性化学物質を分析し、種類や量をモニタリングしています。

研究内容



千代川右岸から見た鳥取砂丘



調査地点の漂着物



ペットボトルなどの人工物が目につく



日本以外のものと思われる漂着物

海岸漂着物には様々なプラスチックがあり、日本だけでなく海を隔てた隣国からのものも多く含まれる。これらは主に家庭で出るごみを中心であり、漂着物自体はそれほど危険性の高いものではないことが化学分析によって明らかとなった。

これまでの鳥取砂丘での定期的な調査から、海岸には日本語表記のごみも多数漂着していることが分かり、隣国よりもまずは日本国内から海に流出するごみを減らす私たちの意識や努力が必要である。

応用分野

環境分析分野 廃棄物分野

連絡先

公立鳥取環境大学 准教授 佐藤 伸
E-mail: s-sato@kankyo-u.ac.jp /Tel: 0857-38-6767